

令和元年度 第2回 南砺市公共施設再編計画改訂方針検討委員会 会議録

日 時 令和元年 10 月 28 日（月）午前 9 時 30 分～

場 所 福野庁舎 201 会議室

出席者 ○委員 6 名

高山純一委員（委員長）

松本久介委員（副委員長）、

岡島奈美子委員、西村大仁郎委員、尾田慎一郎委員、浅田直彦委員

<欠席> 岡部智美委員、浦井啓子委員

○事務局 5 名

石崎行革・施設管理課長、氏家教育総務課長

森施設再編係長、山田副主幹、荒井副主幹

（開会）午前 9 時 26 分

【石崎行革・施設管理課長】

定刻前ですが、本日出席の皆さまにお越しいただきましたので、始めたいと思います。本日、岡部委員から欠席のご連絡を受けており、浦井委員からは出来れば出席したいとのことですが、出られないかもしれない、出られても遅れて来られるとのことです。

最初に資料の確認をさせてください。まず第1回の資料は皆さんお持ちでしょうか。第1回の資料をお持ちいただきたいということと、あとは机の上に次第、委員名簿、座席票、それから差し替え資料ということで2枚と、参考資料ということで前回質問のあった学校規模、小中学校の規模に関する資料を配布しております。もし無いということであれば、お申し出いただきたいと思います。差し替え分についてはイオックスヴァルトのもので報告の数字に誤りがありました。また、本日、財政推計の資料を出させてもらう予定でしたが、これにつきましては、私どもの方で確認作業を進めておりますが、本来50万㎡を25万㎡に減らすということで、基本的にその数字は大変変わりませんが、財政的な関係ですとか、収入の交付税がどうなるとか、そういった関係が影響するであろうと見ており、人口の関係も影響するということで、そちらの影響が大きいかと思っており、委託でやってもらっているのですが、その数字が私共として納得できるものになっていないので、申し訳ないのですが、今回も提供の方を差し控えさせてもらいました。

では、資料の方よろしければ、高山委員長からご挨拶をよろしくお願いします。

【高山委員長】

改めまして、おはようございます。朝早くからお集まりくださいまして、まことにありがとうございます。前回、南砺市の公共施設の数とか面積、それに対して今後どうすべきか、事務局案では半減させるということで検討をされていますが、今後どういう種類の施設から削減すべきかを検討していただくということで、ある程度意見がまとまったかなと思っております。おそらく、個別の施設を最初に考えると中々難しい問題がいっぱいありますので、民営化できそうなものとか、確実に公共がやるべき

ものというような仕分けを、ある程度していただいた上で、来年度には、個別施設の削減に進むというかたちで考えたいということです。今日は大枠を見ながらご意見を頂戴できればと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

【石崎行革・施設管理課長】

ありがとうございます。それでは、規定により委員長に議長を務めていただくことになっておりますので、よろしくお願いいたします。

【高山委員長】

はい、それでは最初に、類似する市の公共施設保有数について、資料 5 がありますので、それについて事務局から説明をお願いしたいと思います。

〔事務局説明（資料 5）〕

【高山委員長】

はい、どうもありがとうございました。
何か今の説明についてご意見ご質問ありませんか。

【C 委員】

施設数は、具体的にどこかというのは一つ一つ見ていかないといけない訳ですね。

【森施設再編係長】

そうです。具体的にどの施設がどこに区分されてというのは、前回配布の施設管理状況、ネットコストとか公共施設分類別の分析ということで、表になっているもので確認していただくことになります。

【C 委員】

この資料 5 の 3 ページ以下、集会施設とか、右側に今までの計画があって、この改訂後のところに、我々が何かコメントをしていくという感じでよろしいか。

【森施設再編係長】 はい、そのように考えております。

【C 委員】

例えば、この集会施設ですが、市内に 31 の地域づくり協議会があって、公民館を保有していない地域があるじゃないですか。井口、城端、井波、福野中部とか

【森施設再編係長】 福野中部は、産業文化会館の裏に軽量鉄骨の公民館があります。

【C 委員】 そうですか。それは 29 の施設の中に入っている？

【森施設再編係長】

入っています。城端も勤労青少年ホームの中に公民館機能があるので、施設数とし

てカウントしています。前回も説明しましたが、例えば、ラフォーレは、温水プールや屋内競技場の機能もある複合施設ということで、それぞれ床面積を按分して、どちらの分類にもカウントしています。

【C委員】

按分ですか？井口自治振興会の事務局は、役場に間借りしていて全く機能していないはずで、そういうものを椿館で一体化すればどうかとか、アイデアを出しているが、この数、コミュニティセンター2カ所は、どことどこのことですか？

【森施設再編係長】

1つは上梨（平）にある「こきりこ館」、もう1つは新屋（上平）にあった住宅を普通財産にしたのですが、それに対する集会施設が1つ残っていて、2つになっています。

【C委員】

集会施設から順番にいくとしてコミュニティセンターというのは平・上平の2つを言っている訳ですね。可能な限り早い時期に地元をお願いするのは当然のことで、それは今までやってこれなかったのですか？

【森施設再編係長】

当然、第2次再編計画は平成28年度からスタートしており、作業はしておりました。当初コミュニティセンターは9施設あり、現在は2施設が残っています。その間7施設を地域に譲渡いたしました。

【C委員】

コミュニティセンターは、そこに書いてあるように要らないと言われたら解体するという意味ですか？

【森施設再編係長】

ほかの活用目的が無ければ売却を目指し、活用目的や買い手がなければ最終的には解体、または壊さないまでも、貸付という手段も選択肢となってきます。

【C委員】

地域づくり協議会が拠点としている旧公民館は、今はコミュニティセンターと呼んでいます。原則維持するが、耐用年数が来たら、そのことを目的とした新築は行わない。その場合は、他施設との統合・複合化を図っていくという考え方ですね。

【D委員】

ちょっといろいろこの話を進めていく前に、判断の前提条件というか材料にしたくて聞くのですが、前回の話だと、今お金がなくなってきましたよ、なくなってきたら基金の取り崩しをして補てんしていきますよ、それがなくなったら財政破綻しますよという、簡単に言うとそういうことかと理解しているのですが、例えば、市の財政が破綻した場合、市が保有している資産というのは、どういう扱いになるのですか？

【石崎行革・施設管理課長】 どうにもならないですね。市の財産のままです。

【D委員】

市の財産のまま保有されるのですか。例えば国が全部没収して管轄機関として売却していくというわけでもないのですか？

【森施設再編係長】

企業とは違って差し押さえとか抵当がかかっているわけではありません。市の財産のままですが、維持していくのか、規模縮小していくのか、よりスピーディーに動かざるを得ず、それに対する再建計画というものを策定しなければいけなくなります。

【D委員】

夕張市とかを見ていると、市の意見は無く、例え出しても国がダメと言えば全然通らなくなるという感覚なのかと思っていて、市が使いたいと言ったとしても、国が要らないと言えば、潰さなければいけないとか、そういうことではないですか？

【森施設再編係長】

一方的にそうなるかどうかは別として、再建を目指したときに、それが国として認められるかどうかというところで、一つの判断はこようかなと思います。

【C委員】

城端公民館は独立したもの（ハコモノ）を持っておらず、勤労青少年ホームに間借りしているわけです。それで次のページに行くと勤労青少年ホームという表記が出てきます。一つのハコモノが二つのところに、井口も役場の一室に間借り、井波は文化センターの一室に間借り。だからこれは整理しないといけないと思います。

私が前から言っているのは、無いところには作ってあげるか、どこかの建物を地域に譲渡し、そこを拠点に頑張ってくださいというような代替の場所を、早い段階、小規模多機能自治がスタートする前段階で「場所はこちらを使ってください」「タダで譲渡しますから大事に使ってください」というよう動きを同時に進めなければいけなかったということ。小規模多機能自治がスタートしているにも関わらず、井口や、城端の旧町部、井波に拠点公民館が無い。福野中部も産業文化会館に間借りしているという状態で、別ページにまた産業文化会館が出てくる。資料が混在していて、そこをまたきめ細かく言われる。数の面も面積のカウントも按分比例していますと言われても、おかしい話ではないかと思う訳です。

【石崎行革・施設管理課長】

前回、一覧表があったと思うのですが、そこで黒丸が付いている施設が複合施設として全てそうになっています。南砺市にたくさん建物がある中で、それらについて単独で立てる必要なあるものか、既存の施設の中に入っていくのも一つの方法ではないかと思っており、必ず単独で建てなければいけないものではないと思っています。

【C委員】

それは私もそう思います。単独で建てるというのは今の時代、無理な話で、例えば井口なら椿館に拠点を移して、そこを充実していけば良いのではないのでしょうか。

【石崎行革・施設管理課長】

今回は、そういうことも含めて考えていただければと思います。個別の施設のことを色々考えていくと議論が前に進みませんので。

【C委員】

もちろん、そうです。何を言いたいかと言いますと、数字なんかでもすごく分かりにくいということを言っている訳です。

【森施設再編係長】

同一施設内に別分野の機能があるということを表すため別々に記載しています。

【C委員】 ダブルカウントになっているようなところがあるのでは？

【高山委員長】 ダブルカウントはしていないのですよね。

【森施設再編係長】 ダブルカウントはしていません。按分比例ではなく、該当機能に使っている部分の面積をきちんと出して、そこをトータルの床面積から区分させてもらっています。

【石崎行革・施設管理課長】

先ほどのD委員さんのご質問についてですが、市としては、財政が破綻する前に当然建物を使うことを止めると 생각합니다。住民系サービスを維持するために建物を使うのを止めましょうというかたちになろうかと思っています。

【D委員】

今回、個別の施設の話はせず大枠の話をしていくというのは当然と思っています。自分が住んでいるところは分かるけれども、全ての地域の事情は把握してないので、例えば井口の細かい事情を言われても、正直分からなくいので判断のしようがない。自分は福光に住んでいますが、福光は細かく分かれていて自分たちの公民館をそれぞれ保有しています。個人的には大きい公民館が無くても大丈夫と思うのですが、それは全てのエリアで皆さんがそう思うかという多分そうでもないと思います。そういうことを分からないのに判断してくれと言われても、なかなか判断しづらいというのは一つ、意見としてはあります。

例えば、自分たちのまちと同じ状況が全てのところで繰り広げられているのであれば無くても良いな、という判断ができると思いますが、おそらく今、C委員の話を聞いている限り、それでも無いのだなと感じました。その辺、どのようなものなのか教えていただけると、ありがたいと思います。

もっと小さい単位で地域として公民館を保有しているか、要は、福光なら西町で西町公民館を持っていて、旧町部全体で福光公民館もあります。規模感が違うので主要な用途は違ってくると思うのですが、代替利用ができると言えばできると思います。代替施設があるかないかでも判断は変わってくると思います。全て取り上げてしまい、そういう場所が無くなったら、それはそれで困るでしょうし、代替できるものがあれば、一方は無くしても良いという判断も出来ると思います。ただ、そういった情報が分からない状況かなと思います。

【C委員】

やはり、今のD委員の話を聞くと、例えば3ページから始めるにしても、まずは各施設の「基本的な考え方」のところを、図書館はこういう考え方でいいか、交流施設、小学校、と順番に議論していく。基本的な考え方は、以前から決まっている現行のものだから、その文面を訂正したり、書き方について議論したりすることはできる。私がそこまでこだわるのは、その下、改定後の基本方針で維持すべき施設の数まで我々が決めるのかっていうこと。

D委員が言われたのと似たような話ですが、基本的な考え方では、交流センター（公民館）はそれぞれの地域の拠点だから基本的には残しますと書かれている。ただし、耐用年数が来たら新設はしません。どこかの現有施設と複合化するとか、いくつか集めて新しい複合施設を作るとか、前回の考え方を維持するなら、この委員会で決めればその通りになる。問題は、この維持すべき施設の数まで我々が議論して、D委員が言われるように、他地域のことで分からない我々が決めて良いのかということがある。私たちが数まで決めて良いのでしょうか。

【高山委員長】

これは、でも削減してかないといけませんので、こういう施設はここまでの数にしますよと決めないと物事が進まないと思います。

その時に最初に、差し替え資料にもありましたが、市民文化系施設、社会教育系施設、産業系施設等があって、最低限行政でしか持てないものはどれか。無くても良いという言い方はおかしいかもしれませんが、そういうものはどれか。要るけれども民間でもできそうなもの。あるいは売却可能なもの。そういうものを決めないと難しいのかなと思います。

【E委員】

いろいろな地域の事情があって、いくつという話をする、あそこはどうだとかいう話になって多分話が進んでいかない。単純に考えると、考えやすいのは文化センターで、集会などでできる文化センターが今、ヘリオス、井波文化センター、じょうはな座と三つあります。で、地域で考えると、城端は城端で欲しい、井波も井波で欲しい、福野は福野で欲しいという話になってしまう訳ですが、例えば、文化センターは市が1つになったのだから1個で良いでしょうという話をこの委員会で決めたとして、今度は1個にするとされている中で、文化センター同士の話し合いが持たれる。そこで話をしていく中で、やはりどうしても2個必要という話になったとしたら2個になるのかという、そこら辺の流れですね。こちらが数字を提示すれば、それは決定条

件なのか。でないと、今でいう公民館なんかは、こちらで例えば全部譲渡するのが当然ですよと決めたとしても、多分、その地域が保有できる大きさだったり規模だったりの話が必ず出てくる。小さいものなら保有できるけど、大きいものだと保有できないとかいう話は後から出てくると思われるので、この委員会では、大まかに、本当に経営のことだけを考えて、これは半分、これは全部譲渡、これは全部残しましょうという話をしていかないと多分話が進んでいかない。だから、こちらは地域性を完全に無視して、経営的な問題でこれぐらいに縮小しないといけないというふうに考えるべきだと思う。その先に進んだ時に、地域に戻した時に、やはりこれは公共で持ってもらうべきとか言われたとしても良いのかというところ。こちらでは、地域のことを考えると絶対に話が進まないの、経営的な観点で見て判断していけば良いという話ではないかと思います。

【C委員】

D委員もE委員も私もそのような意見だが、この委員会では個々の目的ごとの施設について、これぐらい減らさないといけないというものを出さないと案にならないという意見と、そこまで書き込むのはなかなか難しいという意見が平行している。

【E委員】

地域のことを考えたら数的なことは削減しないのが、現状、皆さん多分ギリギリでも満足している状態。ただ、このままの状態だと市は破綻すると言っているの、やはり数は減らさないといけない。数は減らさないといけないが、地域のことを考えると、総論賛成各論反対になりますよね。

【高山委員長】

そうなりますが、でも、やはりこの委員会とすれば、総論で議論しないと前に進まないですし、しかも優先度が違う訳で、地元でこれを持ってくださいと言っても、これは行政が持つべきでしょうというものもあれば、これなら地元でも持てるなとか、少し我慢できるなとか、何か我慢をしないといけない。結局、決まっているお金、財政はこれだけしかない。それが全部使えるかということそれは無理なので、これは行政でお願いします、これは民間、これは無くなっても我慢しよう。あるいは、ここには無いけど、あそこにはあるから少し遠くなるけど、それはみんなで少しずつ我慢する。それは全部がどこか便利なところではなく、便利な施設が近くにあるところもあれば、この施設は少し遠くなるけど我慢する、そのかわりに他の施設については便利なものが近くにあるとか。そういう全体として便利なものとちょっと不便になるものをバランスよく考えていかないといけないと思います。

【C委員】

それと資料の5の分類の中で、民間でもやっているから特に公的サービスとしてやり続けなければいけないとは思わない、と市役所は軽く言われる。飲食店、飲み屋、喫茶店、何でもそうだが、やはりバックにどれだけの人口があるかで、経営が成り立つか成り立たないかが決まる。スキー場も温泉施設もそうだが、都会に行けば民間でやっているから行政がやる必要は無い、と一口に言えばそうかもしれないが、背景と

して一定的な人口が無いと民間経営は成り立つはずがない。例えば温泉施設のように市内でいくつか維持しないと市の福祉は向上しないという施設もあると思う。民間でやっているものは全部民間でやれば良いという一刀両断みたいな論理が前に出ているのが心配、そういう割り切り方で良いのかなと思う。

【高山委員長】

一気に、じゃ明日から民間という訳にはいかないとは思いますが、5 年先なのか 10 年先なのか、財政も一気に破綻する訳ではないが未来永劫もつことも無い。20 年先には破綻するというのが目に見えている訳で、徐々に慣れるということも変ですが、そういう経営の仕方をやっていかないといけないのではないのでしょうか。

【E 委員】

多分、今の話だと市の収入として、観光でやっていくのか、企業誘致で人口を増やしてやっていくのかという方向性が必要になると思う。観光でやっていくのなら温泉とかスキー場は残さないといけないという話になるし、観光ではない収入でやっていくということなら、企業誘致を一生懸命にやって、観光は少し縮小していかないとやっていけないという話になる。全体的な経営のことを考えないと、あれもこれも必要だと言っていたら、多分全部必要だという話になってしまう。どうしても経営としての判断をしていかないといけない。私も経営をしているので、全部やっていけば、どこかで芽が出ることもあるかもしれないけども、どこかで切り捨てざるを得ない部分が出てくる。そこで順に切り離して健全な経営にもっていかないと。今住んでいる人たちは設備が整っていて良いかもしれないが、後から戻って来ようという子どもたちのことを考えると必要な施設と必要でない施設がどうしても出てくる。そういう観点で見ていかないと。例えば公民館が 1 つでも、話し合いで順番に使うことで賄っていけると思う。そういう方向で数を減らして、地区にこれは残しておきましょうという話をしてもらわないといけない。こちらは全体的に数字を少なくするという話。少なくなったらどうするとか、少なくなると困るという話は、それぞれの地域や地区で話をしてもらえれば良いと思う。

【高山委員長】

南砺市は 4 町 4 村、しかも広いエリアを持つ旧町村群が一つの市になった人口約 5 万の小さな都市。よく似た人口の市の施設保有数がどれくらいかという資料も出してもらっていますから、ここの分野はものすごく手厚く市が施設を保有している状況だとか、ここは他の類似都市と比べても遜色が無いとか、あまり少ないというものは無い訳ですが、こういう施設は他市に比べてサービスが良くないとか、そういうのが見えている訳ですから、極端に倍以上の数や面積的に保有しているような施設はグッと抑えることも可能な訳で、そういうところからメスを入れないと難しいと思う。

【D 委員】

この資料を見れば、宿泊施設と介護施設と庁舎が多いのは明らかだから減らしましょうという話になりますね。

【高山委員長】

ただ、今言われたように、宿泊施設がどのくらい市の活性化や産業振興に貢献しているかという側面も大事で、みんな民間でやれるかと言うと、民間でやれるのならとくに民間になっているということもあります。なかなか民間だけではやれないから行政がテコ入れしたかたちでやっているという、そのバランスだと思います。

【D委員】

ちなみに、12の宿泊施設にかかるコストについて、この票の見方を教えて欲しくて、この中で黒字なのは、どの施設ですか。維持管理コストを収入が上回っていれば黒字ということでしょうか。

【森施設再編係長】

はい、第1回でお渡ししました資料2の42ページになろうかと思います。宿泊施設はこの42ページの桜ヶ池クアガーデンからとなります。場所で言うとネットコストの部分に「▲」がついていれば黒字な訳ですが、▲が付いている施設が一つもないということです。で、赤字の分については市が負担しているというふうに見てもらえればと思います。

【D委員】 ほかにも沢山あるけれど黒字の施設は一つも無いということですか。

【森施設再編係長】 そうです。

【石崎行革・施設管理課長】 減価償却費も考慮してということです。

【C委員】

今日集まっているメンバーで、総論賛成各論反対になるだろうと決まっている基本方針を決めろという。本来は、役所が一生懸命考えて案を出して、それに対して、ここはちょっと違うとか、ここの書き方がおかしいとか、意見を申し上げる程度であれば良いが、前期5カ年の計画を立てながら、その進捗状況が17.5%で、目標の50%も達成できなかった実績が現実にある訳です。それで今回は、また輪をかけて、基本方針の文言から維持すべき数まで、この委員会で決めろという。あと2回あるにしても相当議論しないといけない。泊まり込みの3泊4日くらいでやらないと、これはなかなか難しい。

例えばこの基本方針でも、維持します、と淡々と書かれていますが、維持にもいろいろあるじゃないですか。補助金を交付して何とか頑張ってくださいという維持の仕方、指定管理にして、これしかお金は払えませんか足りない分は町内会から集めるなりして維持してくださいというやり方、市役所が丸抱えで維持するという考え方の赤字を市役所が丸抱えで補填しているような第三セクターみたいな施設もある。実に複雑怪奇じゃないですか。現に公民館でも何平米以上の公民館は30万円あげますから足りない分は町内会費で賄ってくださいというのは今までの考え方。維持管理費全額を市役所が払ってきた訳ではない。一番大きいところは45万、次は30万であり経費のかからない複合施設に入っているようなところは10万円と、お金を払って足りな

いところは町内会で集めて維持管理しなさいと、公民館は現実そうやってきている。そういう施設も現実にある中で、指定管理もあり、補助金をもらっているところもあり、三セクもある訳でしょう。何かこう「一緒くた」になっている。

【高山委員長】

先ほど議論した産業系の宿泊施設は基本的に指定管理ですか。

【森施設再編係長】

2 番の「なんとに住んでみられ」住宅、それと 7 番、そして 12 番は直営になっています。直営と指定管理の違いは、資料 2 の 40 ページに運営主体という欄に、指定管理であれば「指定」、「直営」と書いてあれば直接市が管理運営しているという区分になっています。

【高山委員長】

例えば指定管理だから、いつまで契約なのか、1 年なのか 5 年なのか分かりませんが、そういう契約ですよ。そうすると「もうやめた」と言えば、やめることは出来ない事では無い、市がやめるということですね。

【C 委員】

文言に指定管理と直営が混在しているもの、例えば温泉施設のところでは「温泉施設は市民の憩いの場であり、他の産業系施設よりも多くの利用者がいます。しかしながら、本来民間でのサービス提供が可能であるなど、行政が保有する必然性が他の施設に比べて低いと考えられます。このようなことから基本的には耐用年数まで維持し、それ以降は集約していきます。しかし、短期 5 年間に利用者が 3 割減となった場合は、統合を進めていきます」この書き方もよく分からない。

【D 委員】

今回の資料だと 8 ページの宿泊施設だと、30 年後の再編方針は、「基本的に譲渡し市では保有しない」とある。私個人の意見で言えば、この内の 10 施設は保有しなくても良くて、「住んでみられ」住宅の 2 つは、移住促進のためにやっている施設で利益を産もうとしている訳では無いから、これは保有していても良いのではないかと。全部切り離そうとしているところに戻ってしまうような意見になりますが、そういう考え方もある。

【石崎行革・施設管理課長】

8 ページの左側に総合管理計画での施設保有数と面積を出しておりますが、そもそも左側の考え方で計画を作っています。50 万を 25 万に減らすという計画だったので、これに対して市民の皆さんに説明して理解をいただいたのが右側（の再編計画）になっていて、その部分では 6 万㎡が減っている訳です。だから温泉施設は残すというふうになっていますが、左側の総合管理計画の中期目標では、民間事業者への譲渡や施設の廃止を進めますとし、そういう考え方のもとで、そもそもは進めていました。先ほど委員長からも行政で持つべきものはどれとかいう話がありましたので、元々の

総合管理計画も踏まえた上で議論いただければと思います。あまり個別の事は考えず、将来の子どもたちに何を残していくのかという視点で考えていただきたいと思います。

【H委員】

先ほどから話を聞いていて、優先度の表のライン引きがどこにあるかによって決まるのだろうなと思って見えています。ここで D に入った施設は、中期的か長期的かは別として、確実に無くしていかないといけない、という方向に間違いなくしていかないといけないですね。それでちゃんと目的が達成される訳では無いだろうから C にも関わってくる。さらに B と A は残すけど、ちょっとう寄せるといような話をしていかないといけない、という流れは見えている部分。だからこのライン引きをどうしようかという話を進めていかないといけないのだろうなと思う。C 委員は何でも事業とかをよくご存知でいらっしゃるの、これは絶対残しておかないとダメだぞとか、いろいろな経緯、色をつけられた理由や根拠などを基に色々と物事をお話しいただいていると思うので、そういうものがあるならば、これは残した方が良いという話を出す場所にさせていただくとして。このライン引きですね、D に入ったら結構早めに、C に入っても長い目で整理されていくという、その辺のライン引き。それで、ずっと思っていたのですが、なぜテニス場や屋内競技場は D で、C に野球場や体育館が残っているのかとか何でこういうライン引きなのかという部分。あくまで叩き台というのは分かるのですが、それをどうしようかという話を、何か流れとして持って行ってもらえると整理された話になると思うので、そのように進めていっていただきたいですし、その中で意見があればその都度意見をさせてもらいたい。

【C委員】

仰る通りで、それだったら我々がここに集まる必要は無いと思う。要するに方針は決まっているのだから、市が決めれば良い訳で。

【H委員】

その方針に対して、私たちが物申させてもらって、このラインの位置を変えさせてもらうというような話をするということですよ。

【C委員】

ゼロから我々に、文面や数を書けと言われると、中身を厳しく吟味して、指定管理か、三セクか、直営か、儲かっているか、赤字か等々、それは個別に多少議論しないといけないし、あまりにも乱暴で、数まで書けるのかという話になる。宿泊施設に 7 とか入っていると、うちはどっちに入った？みたいな細かい話に結局なってしまう。

【H委員】

結局そうですよね。D に入った時点で長生きさせるのか短く維持するのかというレベル。資料を見た感じだと、そう見えてしまう。どういうふうに見ていくべきなのだろうかなと。

【高山委員長】

産業系施設を市が売却したいと言った時に、じゃあ買いますよ、というところがありますかね？

【D委員】 いただいた資料だと、ほぼ無いですね。苦戦しているという感じ。

【森施設再編係長】

厳しいです。厳しいですが、売れる・売れないは再編する手法の一つなので、まずは市として、どの機能をどれだけ残すのかを決めていただきたいと思います。

【H委員】

残すよりも本当はもうやめたい、サービスを閉めてしまいたいという感じですね。そうすれば停止みたいにして無くなる訳ですね。

【森施設再編係長】

建物は残っていても、普通財産のように一切維持管理費をかけないで、市所有でありつつも運営管理や更新コストをかけないという持ち方もある。売るのはその後で売っていくということも出来ると思うので、売る事を前提に話をされなくても良いと思っています。

【石崎行革・施設管理課長】

廃止したい訳ではなく当然使ってもらいたい、使ってはもらいたいのですが、使うには、やはり誰かが負担をしなくては行けなくて、その負担が現役世代だけではなく、子どもたちにまで残るのであれば何かしらの決断をしなくては行けない。もう先が見えてきているので、そういう観点で考えてほしいと思います。

産業系施設も PPP／PFI という手法もありますので、市がお金をかけないで管理をする方法というのは、市で維持しないとしても、模索しなくては行けないと思います。

【C委員】

何カ所かに出てきますが、耐用年数までは維持して、耐用年数が来たらその建物の目的そのものを新築するという事はしませんというのは正しいと思います。問題は耐用年数が来るまでの間にボイラーが傷んだり、屋根の防水がおかしくなったりして修繕に大きなお金がかかってしまうこと。市役所の入札結果を見ていると次から次へとそういう道路や橋梁、水道管もそうでしょうけど、ハコモノもしっかりで修繕にお金がかかっている。耐用年数まで修繕にお金をかけず耐用年数が来たら壊す、新しいものは建てません、と単純にはいかず、滅多矢鱈と維持管理経費がかかっている。

【石崎行革・施設管理課長】

ですので、私たちは残すものにお金をかけたいと思っています。でも、残さないものに、また修繕が出てくる。それも沢山。これは建物がある以上はかかります。ですので、私たちとしては早く残すものを決めて、残すものには手入れをしていって、残さないものは大規模な修繕が発生したら休止するということを考えていきたい。その前段となる考え方は今ここで決めていただきたいと思います。と思っております。

【C委員】

大規模な修繕が発生した時に、そういうふう整理すると決めた施設は、あと残り 10 年なり 15 年なりの耐用年数をもたせるために、また 1 千万とか 2 千万のお金をかけることをしないということは、どこかに書かないとダメだと思う。残す以上はずっと維持管理する、修繕費などにお金をかける。やがて死にいくものに、どうしてお金をかけないといけないのかという話になるじゃないですか。

大規模な維持修繕をしないという目安もこれはなかなか難しい。金額で決める訳にもいかないし、ハコモノの大小にもよる。

【石崎行革・施設管理課長】

それはまた、こちらで考えさせていただきたいと思います。今は何を残すべきか、子どもたちに何を残していくべきかを考えていただければと思います。

【高山委員長】

もう一つ資料があるのですが、学校規模適正化・適正配置等について、この説明を少し簡単にさせていただけたらと思います。

【石崎行革・施設管理課長】

前回、井口の小中一貫校の話がありましたので、今の小中学校の事も含めて、氏家教育総務課長から説明申し上げます。

〔氏家教育総務課長説明（参考資料）〕

【C委員】

井口に小中学校を存続する。小学校だけを残して中学校をやめるという考え方もあったかと思うのですが、部活動が出来ないとか、そういうことでは具合が悪いから、近隣の中学校に行くという考え方も一方ではあるだろうし、小学校も中学校もやめてしまうという案もあったけれど、小中一貫校にすることで小規模校の良さを生かして残していこうという話があって、それは賛成だと思っていたら、小学校が 50 年近く経っているから 16 億円かけて中学校に小学校を併設して建てるという案を聞いた。費用対効果というか、今我々がこんなに厳しい話をしている最中に 16 億円で小中一貫校を新築すると言われたら、それは何の話なのか。井口の人たち、子育て世代の親たちの中には、いっそ無くしてくれた方が、子どもには大きな学校に行ってもらって、伸び伸びと部活動をやらせたいとか、野球部に入りたいとかいう想いもあると思う。だけど、一部の大人たちが村の面子と存続をかけて頑張る訳。頑張られる事は良いのですが、廊下で繋がっている学校を、なぜ 16 億円もかけて小中一貫校に新築しないといけないのか。我々が公共施設を再編しないといけないと議論しているのと著しく方向性がズレる訳ですよ。南砺市は言っている事とやっている事が無茶苦茶ではないかという話になってしまい、全体に非常に悪影響を及ぼすような気がして心配です。

尚かつ、福光地域には中学校が 2 つあり 1 学年に 2 クラスがやっとの現状。今日の資料にも出ているが、福光地域の 4・5 歳児の人数、単純にそれを 2 つで割っても井波

や城端より少なくなる。その内1クラスになるだろうし、城端も井波もそうなりそう。福野が何とか2〜3クラス。福光も小学校3、中学校2だと1学年1クラスになる可能性が高い。そういうことにも踏み込んで、一方で痛みを伴い子どもたちのためになることを本気で考えなくてはいけないのに、面子や我で16億円をかけて新しい小中一貫校を作るために、小学校と中学校をくっつけなければいけないという。くっつけなくても一貫校は出来ると思う。それで老朽化した時にいよいよ統廃合を考える、他の施設と同じような考え方をすれば良いと思う。そういう意見があちこちから出ています。そんなことで良いの？とか、城端も1クラスになりそうだから小中一貫校にしてもらって(学年区分を)4・3・2にすれば中学生ロスも無くなり落ち着いて勉強できそうだからなかなか良いじゃないか、とか(各地域が)言い出したらどうなるのかという話。そう思われませんか？そういう議論を市役所内部でされたのか？16億円かけてチャレンジする意味があるのか。

それでよく聞いてみると4・3・2の学年区分も4・2・3に戻すという。なぜかと聞いたら、小中一貫校にしたら井口だけでは児童が足りないので、城端・福野・井波からそれぞれ4・5人ずつ来てほしいとなり、4・3・2では他の学校とバランスが取れなくなるので4・2・3に戻すという。そんなのは小中一貫校でも何でも無い。言っている事とやる事がバラバラで、人のところの学校から児童を獲っていこうという作戦だから、これもまたひどいと思う。

【氏家教育総務課長】

学年区分については、そういう理由ではなく教育的な効率というか、そういうものを考えてのものです。

【C委員】

それでは小中一貫校でも何でも無い。4・3・2にしないと意味が無いでしょう。

【氏家教育総務課長】 意味が無いということはないと思っております。

【C委員】

当初、我々に言っていた計画と大きく話や作戦が変わってきている訳ですよ。なぜそうなったのかと聞いたら城端や福野や井波からも来てほしいからという

【E委員】

ちょっとよろしいですか。少し論点がズレてきた気がするのですが、小中一貫校については、他のところでやってもらうことにして、今で言う井口を新しくしなくてはならないという話は、僕らの委員会で議論する施設再編には関係してくると思うので、新築しないと判断された経緯、50年経った小学校と30年経った中学校では賄えないと判断された経緯は、どういうかたちでなされたのでしょうか。

【氏家教育総務課長】

50年経つということは、もう大規模修繕を喫緊にやらなければいけない時期です。そこで南砺市は新しい義務教育学校というスタイルでやると

【E委員】

50年経ったものを大規模修繕すれば、どれくらいかかるものでしょうか。

【氏家教育総務課長】

昨年まで実施しておりました井波中学校、井波小学校の大規模修繕につきましては、それぞれ17億円かかっています。

【E委員】 それは、(児童の人数や規模から見て)井波だからでしょう。

【氏家教育総務課長】

はい、そうです。井波小学校と中学校は別々に17億円程度かかっています。あと、上平小学校と平中学校は新築しましたが20数億円かかっています。

井口の場合、元々普通教室が各学年に1つしか無く、他の学校だとクラス数が減ってきているということで、その分学校を縮小したりも出来るのですが、井口の場合は普通教室の数が変わらず、特別教室も必要なものは必要ですので、その分面積は小さくできないということとはございます。新しい学校でいろいろな教育に関する新しいことをやっていきたいということで、新築で新しい設計のところでやりたいということで新築という方法を選択したという事です。

【E委員】

井口のPTAの方から聞いたのですが、パッとあけたら新築になっていたと。教室数が少ないとか、そういう議論は一切されずに、来たらもう新築になっていたというのでしたので、PTAには全く連絡が無く新築になったの？という話をしていました。施設分類ごとの優先度の資料でいうと小学校も中学校もAの部類ですが、削減の対象として考えなくてはいけない一つではないのかと思います。福光や井波や城端とか地域性の話をすると数は減らせないですが、逆に言えば、小学校は小さい児童がいるので難しいかもしれませんが、中学校は大きな事を言えば2つあれば良いくらいの人口ではないのかという話をしていかなければいけないと思う訳です。そういう時に小規模な(学校規模の)ところに新しいものを建ててお金を使うことは、どうなのかということ、もう一度確認というか再検討していただきたいですし、こちらの議論としてもやり易いということになると思います。

【高山委員長】

将来的な人口がどうなっていくのかも考えて、新しい学校を造ると、また、40年50年と使う訳で、井口が今の人口でこれだけ少ないのに、将来的にこれを維持できるのか、人口的には限りなく(1学年)1ケタになりそうですね。

【氏家教育総務課長】

井口は、特認校というものを採用しまして、一定数の児童を、そんなに沢山では無いですが確保して、義務教育学校という新しい学校で、それをする事で南砺市全体の教育の質を上げたいと言う考え方でやっております。

【E 委員】

施設再編計画の観点からすると、（市全体として）40 年 50 年後も維持すべきものだから更新・新築するという観点で、そうでないものは削減するという判断をしていかなければならないのに、井口の小中一貫校は 50 年果たして児童生徒がいるのかと考えると本当に新築で良いのか、大規模改修までいかなくても維持管理できる状態で保っていた方が良いのかという議論にも関わってくると思います。

【高山委員長】

本来はそうですが、ここで議論される前に、新築されることが決まってしまうていた訳ですね。

【E 委員】 設計は決まっているけど、GO はかかっていないですよね？

【氏家教育総務課長】

全て新築ではなく半分新築と半分改築なのですが、今言われたように、半分新築の部分の実施設計を今年度している段階です。

【高山委員長】 分かりました。

【石崎行革・施設管理課長】 （氏家教育総務）課長はもうよろしいでしょうか。

【高山委員長】

何か追加でご質問ありますか。 大体事情は、よろしいですか。
では、どうもありがとうございました。

〔氏家教育総務課長 退席〕

【高山委員長】

いろいろ議論があっちへ行ったりこっちへ行ったりしていますが、ABCD という優先度のランク付けを大分類ごとにしないといけないということもありますし、その中で各施設をどうするかというのももちろんあるのですが、今の話、学校教育施設とか子育て施設とか保健福祉施設とか医療施設とかを見てきた時に、どれも大事といえは大事ですね。でも医療施設にしても全部が公共で持たなくてはいけない訳ではないですし、民間で持っているところも当然あります。田舎で学校施設を公共以外で持つというのは厳しいと思うのですが、富山とか金沢みたいな所だと私立も当然ある訳です。そんなものの検討などはやられたことは無いのですかね。こういう環境の良い所だから私立の学校を誘致するとか。

【石崎行革・施設管理課長】

大学の誘致等はあったかとは思いますが、中学校や高校の誘致は聞いた事が無いです。可能性は 0 で無いと思いますが、厳しいかなと。そういうことも考えなくてはい

けないということは、あると思います。

【高山委員長】

あと公営住宅、昔で言えば町営、今は市営ですけど、それとかなり多いですね。これの適正規模をどのくらいに決めるかというのも非常に難しい問題ですし、いくつか分散していれば尚更、経って何年経つから改修するとか、建て替えるとかいう議論が当然出てくるので、そうした時に先の話のように耐用年数が来たからもうやめたという話もあれば、それでも 0 には出来ないの、市としてどれくらいの規模を維持するかという目標も決めなければいけない。そこは別途検討されている委員会とかは無いのでしょうか。県とか金沢市とかだと公営住宅をどれくらいにするのかという検討はされていると思うのですが。

【石崎行革・施設管理課長】

戸数の検討はしていると思います。民間のアパートを公営住宅として借り上げるという方法もありますので、計画はあるにしても、戸数を確保する上では、市の持つべきものと、そうでないもの、そういった面では考える余地はあるのかなと思います。

【高山委員長】 そういう公営住宅の計画は、ある程度作られているのですよね。

【森施設再編係長】 作っていると思います。

【高山委員長】 この資料の数字は、その計画に基づいた案になっていますか。

【石崎行革・施設管理課長】

総合管理計画を策定時に、その計画はまだ作っている最中でしたので、それは盛り込まれていないです。

【C委員】

雇用促進住宅などは市役所で無理矢理買わされた経緯があって、そういう古いのがいくつか、井波と...

【森施設再編係長】 買っていないです。

【C委員】 南砺市は買わなかったの？

【森施設再編係長】 買わなかったです。

【C委員】 あと全部壊したの？

【石崎行革・施設管理課長】 残ってますが、民間の会社へ全部売却されたはずですよ。

【D委員】

売却されています。CM もやっています。ビレッジ何とか？確かヤフーの系列の会社に雇用促進住宅は全て売却されています。

【C委員】 だけど壊されてないですよ。

【石崎行革・施設管理課長】 まだ残っています。みんな残っています。

【D委員】 古いまま使われています。

【C委員】 資料中の市営住宅にはカウントされていない？

【森施設再編係長】 されていません。

【D委員】 雇用促進は市営ではないですよ。

【森施設再編係長】 市営ではないです。

【D委員】

市営住宅が今 B に入っているのですが、雇用促進がそういうかたちで民間にボーンと売却できたのであれば、同じ事は出来ないですか？

【森施設再編係長】 可能性は 0 ではないと思います。

【石崎行革・施設管理課長】 そういったことも議論願えたらと思います。

【D委員】

今、旧雇用促進住宅は、ほぼ市営住宅で借りるのと同じような値段で貸し出されているのではないのでしょうか。そんなに高くないから借り手側の負担は変わらない。

【C委員】

あれは昔の雇用促進企業団に変わるものを、別の外郭組織で作って、そこに国の資本が入ったところが否々安く運営しているのではないか？

【石崎行革・施設管理課長】 前はそうでした。

【C委員】 それをまた売ったの？

【D委員】 ヤフーの系列会社に。値段も福光とかで 2DK が 2・3 万です。

【C委員】 買ったのは、タダみたいなお金で？

【D委員】

タダで譲渡だったと思います。メンテナンスも改修もしないかわりにタダで引き取ってくださいという。入居する時に借り手が改修するなり、直さないのなら古いまま使っても良いという体制になっているはずです。だから、外国人実習生が大勢入っている。安くて住めれば良いという入居者で、どんどん埋まってきている。うちの社員でも若い子が住んでいます、毎週のように外国人が入ってくると言っています。そういうニーズがあって民間でも運営できるとすれば、市営住宅でも上手くできるかもしれないということで、BでなくCでも良いのかなという気もしました。

半分無くさないといけないということは、C以下を無くさないと目標は達成できないということにもなってくる。逆にDだけど、これは残さないといけないとなった時に上に持っていくという話もあると思う。

【C委員】

同じCにするとしても30年後を最終点としてやる訳じゃないですか。
もう耐用年数が来たら民間に売却するか何かで

【D委員】

耐用年数が来たものは民間には売却できないですよ。来る前に売却しないと誰もそんなゴミを買ってくれない。売れる時にタダみたいなお金で、タダで貰えて10年近く使えるのであればペイできるし、最後に解体してもいくらかお金が残るくらいの投資レベルの話でないと誰も買ってくれないと思います。

【C委員】 耐用年数が来たら壊す、だけではトーンが弱いということですね。

【D委員】

今ならタダであげます、耐用年数は少ないけど10年くらい使えます、ということなら買おうかなというレベル感でいけるのではないかと思います。

【C委員】

では、それくらいの老朽度の年数と、ここなら民間が買うかもしれないという施設とその数を特定しないと、我々書けないですね。

【D委員】

何個というのは書けないですけど、例えばそういう方針だけを決めておいて、個別に一個ずつラインを決めていくということであれば、何個というラインまで我々で決める必要は無いのかなと思うんですよ。実質売却とか譲渡という方針だけ決めておいて、その内の何個というのは、例えばもう耐用年数が来ているものは誰も買わないから潰さないといけないとか、そこまでのデータをいただけるのであれば決められるかもしれないですけど、この年内にあと2回で決めてくださいと言われている中で、そういうデータもいただけないかなと思います。

【石崎行革・施設管理課長】 耐用年数のデータはあります。

【高山委員長】 地価などもあると思うのですが？

【森施設再編係長】 そうですね。

【C委員】 ヤフーの系列会社は固定資産税を払っているの？

【D委員】

固定資産税は払っていて、それでもペイできるから買っているはずですよ。ペイできなければ買わないはずなので、それがペイできるかどうかの個別のことまでは、なかなかこの短い間ではちょっと（詰められない）

【C委員】

市営住宅は、今みたいに空き家がバンバン出てくるような時代じゃない時に、若い夫婦がそこに住んだり、今は移住定住という言い方をしているけど、都会から戻ってきた若者がそこに住んだりするという意味で、果たしてきた意味は大きいものがあった。ところが今は空き家が増えていて、移住定住者は、市営住宅に入るよりも一軒家の空き家に入る事例の方が多いのではないですか。

【D委員】

そうですね。賃貸の家賃補助とか。市営住宅に入ってから移住定住しようという人は少ないかもしれないですが

【C委員】 移住定住の人は市営住宅には入れない？だから古民家に入るの？

【D委員】 （移住定住先として市営住宅を）選んでいないだけだと思います。

【H委員】 家賃の問題もあるでしょう。

【石崎行革・施設管理課長】

公営住宅は、いわゆる生活に困っておられる方が安く入れる住宅と、民間がやっているのと同じようなレベルの一般の住宅の 2 種類があります。生活に困っておられる方を対象にした公営住宅は、市として最低限維持しないといけないかもしれませんが、どちらかと言えば若者世代向けの一般住宅、そういうものはどうしても市で持つ必要はないのかなと思います。

【C委員】 それは新しい内に売った方が良くと言う考え方？

【石崎行革・施設管理課長】

売るとか売らないではなくて、そういうことも考えられるということです。

【H委員】

結構立派な公営住宅があると思うのですが、そこにはしっかり人が入っている。

【C委員】　そういう（立派な）住宅はイメージで言うといくつくらい？

【H委員】　パッと見、マンションのような立派なものは4、5件でしょうか。

【D委員】

24の施設の中で、収入的な補助が必要な方が入っている施設と、普通の民間賃貸住宅に入れるけど市営住宅に入っている、例えば福光で言えば遊部の新しい住宅は普通に民間賃貸住宅に入れるような家賃だと思うのですが。

【石崎行革・施設管理課長】

2つが混在している場合もあります。公営部分が何部屋で、一般部分が何部屋という具合に中で分かれているものがあります。いずれにしても、この検討をする上で必要な資料を言っていただければ準備いたします。今日はさすがに準備できませんので次回までに準備させていただきます。あと、分類の中でABCDの優先度を上げたり下げたりということもありますが、Dなら絶対全て無くすとかいうことではなく、Dでも残さなくてはいけないものもあるかもしれませんし、Aでも庁舎のように8つは当然持てないので必要だけど数を減らさないといけないというものもあると思いますので、そういうことも含めて検討してもらえたらありがたいと思います。

【D委員】

雇用促進住宅が売れたのは、良い物件と悪い物件があっても、西日本全体で買っているから一発で売れたという可能性の方が高いと思う。ですから、南砺市の市営住宅でも例えば採算が合わないけどかなり良いところにあるものとか、雇用促進住宅のパターンが当てはまるかどうかは分かりませんが、方向性として市で保有しなくても誰かがやってくれるならやってもらおうとか、民間に譲渡・売却という可能性もあるのであれば24施設全てがBに値する訳ではなく、Bに値する市営住宅とそうでない市営住宅があると思います。

【B委員】

この基準の中で今は縦になっていますが、横軸みたいなものを作って、それこそ、民間に譲渡できるものとできないもの、耐用年数が長いものと短いもの、そういうかたちで色分けしていくと良いのではないかなと思います。

【高山委員長】　そうですね。マトリクスで示してもらえると助かりますね。

【C委員】

南砺市と湯沢市・氷見市・南砺市が比較できるこの表は苦勞されて作られたと思うが、これを私たちは見ないと思う。砺波や氷見がどうか意味が無いので。

【石崎行革・施設管理課長】

この資料で確認していただきたいのは、建物があっても負担するのは、やはり人で

すので（人口当たりでいくつの施設がある等の）目安に使ってもらえたらと思います。

【C委員】

これはこれで一つの資料ですが、先ほど言われたような、もう一つそこに横軸を加えた資料を整理してみるというのは大事ではないかと思う。

【D委員】

そうですね。例えばAの中学校にしても、福光には2校あるけど、他の地域から見れば2校は要らないのではないかと思われる。

【C委員】 30年間は絶対ナンセンスだと思いますよ。

【D委員】

そうするとAは残すけど、そうじゃないものが中にあるのでは？という話が出てくると思うんですよ。

【C委員】 10年後にはそうじゃないとかいう話が出てくると思う。

【D委員】

うちには1歳と3歳の子どもがいますが（中学校が）2つ要るかと言われると、1学年1クラス（の学校）2つで10年後に学ぶことになるくらいなら、1つにしてもらって2クラスで学んでもらった方が、部活もできるし、一緒にスポーツもできるし、もっと良いのではないかなと思う。学校は全部Aだから残しましょうと一概に行ってしまうのは違うのかなと。もっとその、先ほど言われた横軸で判断できると、その中で分類も出来てくるのかなと思います。

【高山委員長】

横軸には、まず耐用年数。もう一つ収益というか資産価値みたいなもの、これはなかなか難しいですか？

【森施設再編係長】

土地の形状をどう切るかによって価値は変わってくるので、建物だけなら市も償却しているので残価が出ますので、資料として出すことは可能だと思いますが、土地も一体的に考えるということになると難しいですね。

【高山委員長】 土地は土地で路線価とか公示地価とか出てくるのではないですか。

【森施設再編係長】 単価は出ます。

【石崎行革・施設管理課長】 それを1件1件となると膨大な数になりますので。

【D委員】 路線価が無いところもありますよね。

【森施設再編係長】　そこはまた区分があつて金額は出せるのですが

【石崎行革・施設管理課長】　売れる売れないではなく大枠の数をまず決めてほしい

【C委員】

AとかBは、まず残る訳だから今路線価がいくらとかまで言わなくても良いのかも
しれない。

【森施設再編係長】　Aの中でもいくつが必要かというのがありますよね。

【C委員】　それは確かにあることはあるけれど

【石崎行革・施設管理課長】

当然、来年はそういう資料が無いと、どの施設をどうするとは言えないと思います。

【森施設再編係長】

建物の耐用年数の残年数、残り何年という横軸の表はすぐに出来るのですが

【D委員】

大規模修繕がここで必要という目安を書いておいてもらえたら、耐用年数だけ書かれても、いつお金がかかるかが分からないと判断が難しい。耐用年数が10年経ったからそろそろメンテナンスが必要とか、50年経ったら大型修繕が必要とか、そういう大枠を注釈に書いておいてもらえたら分かりやすい。

【森施設再編係長】　分類を絞って出していく分には可能です。

【石崎行革・施設管理課長】

分類を絞って、この分類はこうして欲しいという具体例があれば、対応はできるのですが、全てとなると施設が相当な数ありますので

【H委員】

今、結構DとかCの分類について、先に決めていかないといけないという話で進んでいるような気がするのですが、上のAから順番に絞って押さえていった方が、どのくらい施設を減らせるのかという話に近づけるのかなと思います。話の流れとして、上の方を大事にして考えた上で、下の方は切らざるを得ないということにした方が良いのかなと思いますがいかがでしょうか。

【石崎行革・施設管理課長】　どのような資料を準備したらよろしいでしょうか。

【H委員】

例えば今の話だと決め方ですよ。CとDの何を残すかという話ばかりで盛り上が

っているような気がしたので、A とか B のところから先を見越して行って、C とか D に行き着いた方が良いのではないかと。

【高山委員長】 確実に残すものを決めていくと？

【H委員】

残すものを決めてからどれだけの余力があって、じゃあどうすると決めていった方が流れとしては良いのではないかと思います。ただ、売るとか売らないとか方法はいろいろあると思いますが、そういう部分も含めて考えていけば良いと思います。

【D委員】

データだけを見ると、介護福祉施設にデイサービスセンターとかが入っていると思うのですが、資料で見ると他市に比べて圧倒的に多い状況です。ボランティアセンターの講習に行ったことがあり、その際に社協の方々に話を聞いたのですが、結構自分たちで独立してやっているところが他地域だと多いと思うのですが、南砺市では市が比較的補助されている施設が多いなと思っていました。最初の経緯とか詳しい事情は分からないのですが、そうであれば民間でも出来るものとして入ってくることはあるのかなという気はします。だからここの中でも低いところに入ってくる、今、介護施設は B に入っていますが本当に B なのかなという気がします。福祉を軽んじる訳ではなく、施設としてもつかということで、他の方法もあるのではないかとということです。

【H委員】 1 回目に委員長も民間でやっていると言っていましたね。

【C委員】

だけど、この福祉施設には、介護施設が 13 と、その他の社会福祉施設だからラフォーレもここに入っているんですね。

【森施設再編係長】 7 の内数に入っています。

【C委員】

ラフォーレも入っていて、ほとんど既に指定管理の施設ですよ。それで問題なのは、平・上平・利賀とかのデイサービスセンターは、絶対的な人口が少ないから利用者が少なくて、費用対効果が上がらず、人件費も変わらず、さらに利用者が減って、単年度赤字になる。指定管理を受けている社会福祉協議会は、赤字になった分をどう補おうかと頭を悩ませている。いっそのこと「やめた」と言いたいくらいでしょうが、あまりにも影響が大きいからどうしようかと困っている。

【高山委員長】

それも今後 10 年 15 年くらいは需要があるかもしれないが、20 年 30 年先にもあるかという、人口（利用者）が減ってくるから無くなっていきますよね。

【C委員】 そういう 30 年を見通した時に、どこまで推察すれば良いのか。

【石崎行革・施設管理課長】　そこはやはり、30年後のことを見通して

【C委員】　5年後のことでもフラフラになのに30年先はもっと困難。

【高山委員長】

やはり難しい。年齢別人口の資料もありますが、これを見ても何年後にどうなっているのか、誰がいなくなっていくというのは分からない訳ですよ。

【石崎行革・施設管理課長】

先ほど社会福祉施設にラフォーレがあったという話ですが、結局は何を市として残さないといけないのかという話。（社会福祉施設としてあがっている）ラフォーレは、集会施設というか貸会議室の施設なので、そういった機能を残す必要は無いのかなと思います。とにかく市として何を残していかないといけないのかという観点で、こんな機能、山間地域にはデイサービスは必要なくなるよねとかいうことで考えていっていただければと思います。

あわせて、今回の資料ですが、どうしたらよろしいでしょうか。耐用年数の資料は作りますか。

【高山委員長】

それはできますよね。今の話で言うと重要なところから潰していこうという話もあったので、AやBに関わっているところから、まずリストアップしてもらうのが良いと思います。

【森施設再編係長】　現状のAとBの分類のままでよろしいでしょうか。

【D委員】

AとB、上から話していったら、その中に、これはどうだろう？という施設があれば（CとかDに）下げれば良い話なので（それでよいと思います）。

【森施設再編係長】　では、今お示ししておりますこのリストの順番で作成します。

【D委員】

そうですね。これを素案として、この中で変えていけば良い話なので、順番はそんなにこだわらなくても良いと思います。

【C委員】　ちなみに城端の織館はどこに分類されているのでしょうか。

【森施設再編係長】　（Dの）その他産業施設です。

【E委員】

その探し方、例えば児童館が4つあったら、それはどことどこ（の地域）にあるも

のなのかというのは、どこを見たら分かりますか。

【D委員】

その横軸の資料に、どの資料のどこに載っているか、ページ数を振っておいてもらえたら分かりやすいです。ボリュームが多くてすぐに全部を探しきれないので。

【森施設再編係長】 分かりました。資料 2 を前提としてページ数を振ります。

【C委員】

これは確認ですが、市民病院と中央病院は、どこにも載っていませんが、永久不滅のものという位置づけなのでしょうか？

【森施設再編係長】

公共施設再編計画の対象にはしていません。というのも公共施設再編計画で対象にしている施設は、普通会計、市では一般会計と企業会計をそれぞれ持っていますが、今回再編の対象としているのは、普通会計で持っている部分のハコモノを対象にしています。この他にも第 1 回目で話がありましたが、インフラ関係、上下水道とか、そういった部分は対象外にしています。そういう中の一つに病院会計、公営事業で持っている施設である市民病院と中央病院は、別に病院改革プランを設定しており、その中で議論の対象となっているので、公共施設再編計画の対象からは外しております。

【C委員】 診療所が載っているというのはどういうことでしょうか。

【森施設再編係長】

国保会計の直営診療所ということで、一般会計では無いのですが、普通会計の中に入っていますので、対象となっています。

【高山委員長】

話が違いますけど、この前厚労省が示した再編が必要な公営病院・公的病院というのがあったのですが、その中に南砺の病院は入っていませんでした、優秀ですね。優秀というのも変ですが、石川県は7つかな、結構たくさん入っていて驚きましたが。

【C委員】

病院改革プランは、なるべく早い段階に経理を一本化して、診療科の整理統合を進めるという案。これは 30 年という先の話でなく当面の話だと思うし、少なくとも 15 年経ったら白黒つけるくらいの圧をかけないと改革が進まないと思う。ただ、そもそもこちら（公共施設再編計画）の面積には入っていません。

【高山委員長】

分かりました。では、大分時間も経ったのですが、次回に向けて更なる資料の整理を一つお願いして、ほかに何かあったら良い資料などありませんか。

先ほどの公営住宅についても耐用年数で仕切れば、割りと 24 の公営住宅が、こちら

とかあちらというのはハッキリしそうでしょうか。

【森施設再編係長】

概ねですね。例えば 1 団地に 2 棟あって棟ごとに建築年がズレているということもあります。

【D委員】 10 年レベルで変わらなければ、ほぼ変わらないとして良いのでは？

【石崎行革・施設管理課長】

増築しているものもありますので、主な建物の耐用年数で作れば良いでしょうか。

【D委員】

細かいことは今言ってもしょうがないので、目安として見られたら良いと思います。

【森施設再編係長】 主要建物の建築年で作成させていただきます。

【H委員】 すごい大赤字分では無いですけどネットコストのトップ 10 とかは？

【森施設再編係長】

前回配布の資料 2 の 21、22 ページにフルコストとネットコストの上位 50 施設をリストアップしております。判断していただく一つの資料として、ご活用ください。

【H委員】

この辺の施設が面積ばかりではなく足を引っ張っているというのは事実ですよ。

【森施設再編係長】

財政的に言えばそうですが、機能面としてどうかは分かりません。

【H委員】

そこも話をしなくてはいけないところですね。

ここにある施設は、皆さんの要望があって建てられている可能性もありますから。

【高山委員長】 ネットコストが大きいのは保育園関係が多いですね。

【H委員】 収入が無い施設ですよ。

【E委員】 特養に一番お金がかかっているのは建物の維持管理経費が高いから？

【石崎行革・施設管理課長】 更新費用が高いからですね。

【H委員】 入居者からお金をもらっているから、ネットの方には残りませんが。

【D委員】 本来、ネットコストの方を見た方が良いということですよ。

【H委員】 ネットコストの方が財政的なことが分かりますから。

【D委員】 保育園とかはお金が入って来ないけど無くてはならない施設だから

【高山委員長】 学校とか保育園とかは当然そうですね。

【H委員】 給食費を除いて中学校まで無償だから確実に経費は全部かかってくる。

【C委員】 でも建てる時には国から補助金が入ってくるでしょう？

【石崎行革・施設管理課長】

補助金はわずかですね。今は本当に少なく、交付税に振り替わってくるので

【D委員】 保育園系は、お金が入って来ないので一番お金がかかりますね。

【石崎行革・施設管理課長】

あと、ここに上がって来ない経費で修繕費というものが絶対かかってきます。そこは施設を維持している限り、大規模な修繕費がかかります。

【H委員】 そういうことも加味しながら見ていかないといけない訳ですね。

【C委員】

耐用年数の一覧表を出すという話ですが、大規模修繕が終わった施設、先ほどの話だと、井波の小中学校は17億円かけて直したということなので、何か印を付けておいてもらわないと、耐用年数だけで見たら、これは今からまたお金がかかるという話になってしまう。

【石崎行革・施設管理課長】 学校以外は大規模改修をしていないので大丈夫です。

【高山委員長】 耐震改修は各施設でやっていないのですか？

【石崎行革・施設管理課長】

学校、保育園、庁舎ぐらいで、産業系の施設は耐震改修をしていません。そういうこともあって耐震化していない施設はかなりあります。

【高山委員長】

分かりました。事務局への宿題が今回かなり出ました。次回は11月18日です。4回目頃には、何とか素案くらいを作らないといけないということですので、またご検討いただければと思います。

最後に何かございますか。 よろしいですか。 はい、それでは本日は、これで終

わりたいと思います。どうもありがとうございました。

【森施設再編係長】

事務局から一つお願いです。事前資料送付の際に前回の議事録を付けております。内容等につき修正がございましたらご連絡いただけたらと思います。

あと、謝礼をお支払いしたいのでマイナンバーカードの情報等につき未提出の方は、よろしくお願いいたします。

【石崎行革・施設管理課長】

以上で、終わります。どうもありがとうございました。

(閉会) 午前 11 時 20 分